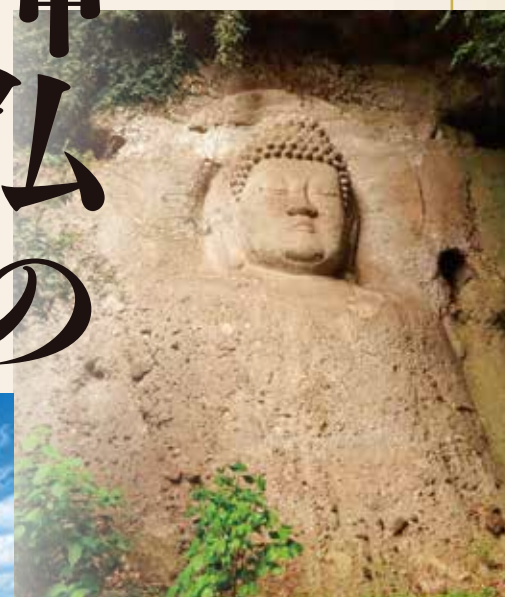


神仏の物語が息づく九州

専門家が語る
神社仏閣巡り



山笠や綱引き行事
多彩な祭りを訪ねよう

まずお勧めしたいのが、神道の祭り、仏教の行事を実際に見ることです。普段の神社やお寺を訪ねるのもいいものですが、祭り・行事は神社それぞれ由緒や信仰の発現であり、地域の歴史や文化が凝縮されているからです。

九州は祭りが多いのが特徴です。一年を通して、どこかで何かの祭りが行われています。例えば山笠は有名な博多祇園山笠だけでなく、旧国名でいえば筑前、豊前、肥前の各地や、さらには壱岐でも行われています。また、山岳宗教の霊場で稲の豊作を願う御田植祭が豊前、肥後、大隅、薩摩などに多く見られます。

占いや盆の先祖供養を目的

神々の物語が息づく

大陸から仏教が伝来した

地でもある九州には、

この地ならではの伝説や史実に基づいた

神社や仏閣が多く存在する。

そこで九州産業大学国際文化学部

日本文化学科の

須永敬教授(歴史民俗資料学・博士)が

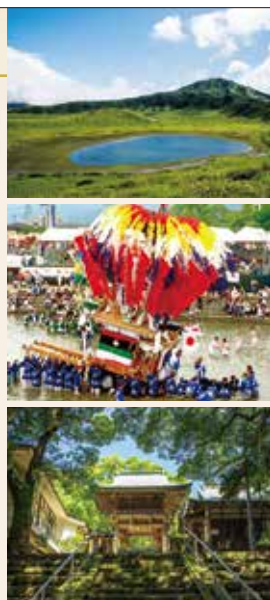
民俗学の視点から

九州の神社巡りをより楽しむための

『二つのヒント』を指南する。

神社巡りへの「行きがい」が増し、

「生きがい」にもなるように――。



日本神話や伝説の
ストーリーを追う

とする綱引き行事が多いのも特徴で、筑前、肥前、肥後、薩摩といった九州の西海岸側に広く分布しています。ほかにも神幸行事、くんち、宮座、十日戎や三日恵比寿と、多種多様な祭りがあります。一部の寺ではお経を唱えるだけでなく、鬼に扮した僧が舞う修正鬼会のような行事も残っています。

こうした祭りや行事の時に神社を訪ねると、普段は見ることができない宝物などを目にできたり、触れたりできることがあります。その地の歴史などを知る機会にもなりまじ、地域の人と触れ合うこともあるかもしれません。

日本の玄関口であったのも



九州産業大学 国際文化学部
日本文化学科教授 須永敬氏

福岡では神功皇后伝説が根

令和8年は午年

参拝で馬に注目するとウマくいく！

うま
午年の今年、「馬力」があって「のびのび元気」に駆ける馬にあやかりたいと、福岡県内の馬に関連する神社に注目してみた。



香椎宮の流鏑馬

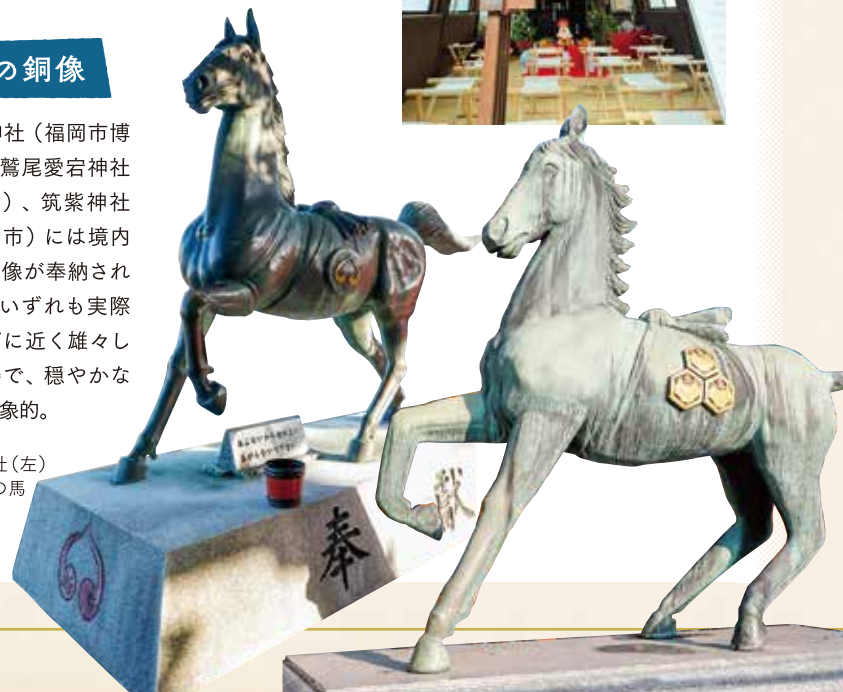
やぶさめ
流鏑馬

香椎宮や志賀海神社（福岡市東区）、住吉神社（同博多区）、飯盛神社（同西区）、櫻井神社（糸島市）ほかで流鏑馬が奉納される。主に秋の大祭などで五穀豊穡や勝運を祈願する。見学者が多く集まる人気の高い伝統行事だ。

馬の銅像

櫛田神社（福岡市博多区）や鷲尾愛宕神社（同西区）、筑紫神社（筑紫野市）には境内に馬の銅像が奉納されている。いずれも実際のサイズに近く雄々しい立ち姿で、穏やかな表情が印象的。

鷲尾愛宕神社（左）と櫛田神社の馬の銅像



宇賀神社（福岡市中央区）の拝殿の天井には巨大な「馬人形」が飾られている。現存する最古の山笠人形ともいわれる。福岡県西方沖地震の際にも落ちなかったことから受験生の参拝も多い。

馬の人形



善正、最澄、空海、栄西 大陸の風をもたらす

九州の特色です。英彦山を開山したのは北魏の僧、善正とされています。平安時代には最澄や空海が、鎌倉時代には栄西が九州から海を渡り、今の中国で仏教を学んで九州に帰ってきました。帰国した栄西は博多に日本最初の禅寺、聖福寺を開いています。長崎には唐の貿易商らが建立した四つの唐寺（興福寺、福濟寺、崇福寺、聖福寺）もあります。こうした大陸との交流もテーマになりそうです。

予習をして 楽しみを深めよう

修験道の三大霊山のひとつであった英彦山など、九州はほとんどの山が霊場で、かつてのお寺の跡なども残っています。山歩きが好きな人は事前に調べておくと、山の楽しみに加えてご利益も得られるかもしれません。

より楽しみを深めるために予習もお勧めします。それぞれの寺社に、そこがどうやって誕生したかという縁起があります。縁起を見ていくと、いろんな聖地と聖地、あるいは寺社が結び付いていることが分かったりします。

こうした縁起や祭り・行事については各寺社のホームページで確かめることができます。祭り・行事に関しては

市販本のほか、各自治体や関連団体のホームページでも紹介されています。ちなみに福岡県文化保護課のサイトにある「福岡県の祭り・行事」報告書には1285件もの調査結果が掲載されています。

①祭り・行事に接する②ストーリーやテーマを追う③目的地の予習をする。そうすることで、寺社を巡る旅がより深く、より楽しくなるのではないのでしょうか。（談）

